

第1回科学技術審議会・審議概要（5月9日開催）

【計画策定に当たっての検討方法等】

- 本道の優位性を踏まえ、地域の課題解決に資する重点的な取組について検討。
- 目標とする将来像を見据え、将来像からバックキャストिंगすることが必要。
- 短期（5年程度）と長期という二つの時間軸で検討。
- 本道の基幹産業は、農業をはじめ1次産業。「1次産業からバリューチェーンをどう構築するのか。」などの観点で議論し、5年後の「見えるか」を検討。
- これまでの取組について、総括・検証を行った上で検討。
- 札幌圏とその他の地域では、自ずと目標が異なる筈。こうした視点も重要。

【AI・IoT・ビッグデータ等】

- IT業界では、様々なビッグデータを蓄積。深層学習、システムづくりに向け、大学等との連携方策・仕組みを検討すべき。
- 1次産業、観光産業、自然環境など、どの分野をターゲットとし、強みを出していくのか議論が必要。

【産学連携の推進】

- 産業支援機関の充実、道総研と大学の連携など、その必要性は理解されている筈であるが、「進んでいる」と言える状況にはない。地域の関係者で議論を。

【研究成果の事業化・実用化】

1 視点

- ビジネスへの活用にあたっては、新産業や雇用創出の観点からの出口戦略が重要。
- 衛星データの活用や航空宇宙の分野、自動走行のほか、再生可能エネルギーなど、本道ビジネスの基礎となる科学技術を如何に発展させるのが重要。

2 知的財産の活用

- 「成果が出てから、知的財産を検討」では、ビジネスに繋がらない。出口を見据えた上で、知的財産権で保護する技術の選択が必要。

3 ベンチャー企業支援

- 成果を活用し起業するベンチャー企業などに対し、債務保証付き資金など金融機関の支援を促進について検討。

【人材育成】

- 青少年や子ども達への科学技術教育が重要。
- 初等教育だけではなく、高等教育、社会人教育など、一気通貫で検討。
- 全国と比較し起業しようとする学生が、相対的に少ない。アントレプレナー教育などの体系化が必要。